

理工学研究科要項

1981年度

早稲田大学
大学院理工学研究科

早稲田大学図書館



011288531821

F-10

897

0(2)

における上部構造と下部構造との関連について)が主要な考察の対象となるはずである。

L3002 建築美学および建築論 (講) 2-2-4 (助教授 中川 武)
(講師 上松 佑二)

「よい建築」であることの判断の根拠において、建築美学および建築論の占める役割は大きい。近代建築における方法論史の具体的展開として構述する。

L3003 建築計画 (講) 2-2-4 (教授 安東 勝男、穂積 信夫)
(講師 池原 義郎)

各教員が分担し、現代建築の展望批判、あるいは作家、作品の研究または設計理論について解説討論を行う。

選択上の注意：建築設計の経験を有すること。

L3004 建築設計計画理論 (講) 2-2-4 (助教授 渡辺 仁)
(講師 中村 良三)

人間にとって好ましくない空間的狀況を回避し、意識的行動によって空間を形づくるうとするなら、われわれはまず空間と人間の相互関係の現状を理解し、そして新しく提案する人間-空間のシステムを活用するモデルを作る必要がある。ここではそうした理解や想像的行動が特に問われる建設の企画段階で重要なテーマとなる施設規模、配置、経路問題決定のためのモデルを中心にして考えてみたい。

また設計プロセスの分析を通して設計方法論についても論及する。

L3005 都市計画特論B (講) 2-0-2 (講師 田村 明)

L3006 都市計画特論C (講) 0-2-2 (未 定)

L3007 都市計画特論D (講) 0-2-2 (教授 戸 沼 幸 市)

(スケール論を基礎とした都市計画論)

人間尺度論を基礎にして人間の居住環境の計画方法論をゼミナール形式で問題にする。

L3007 建築構造A (講) 2-2-4 (教授 谷 資 信)
(講師 桜 井 譲 爾)

主として、耐震構造に関する基礎的事項について述べる。

内容としては、耐震理論、耐震計画、耐震設計、弾塑性構造解析などが含まれている。

早稲田大学理工学研究所(中野) 1981年度
建設工学専攻

選択上の注意：学部における専門選択科目のうち、建築構造力学(Ⅱ)、建築振動学、地震工学および構造設計(A)、(B)、(C)、建築構造計画、構造実習を履修していることが望ましい。

L3009 建築構造B (講) 2-2-4 (教授 竹内 盛雄)
(教授 田中 弥寿雄)

曲面論にもとづき、弾性論の一般基礎方程式を誘導し、特定のシェルについて実用的な各種解法を述べる(田中)。また、特殊な架構理論とその応用に関して詳述する(竹内)。

選択上の注意：学部における専門選択科目のうち、建築構造力学(Ⅱ)構造実習(A)、(B)を履修していることが望ましい。

L3010 建築構造C (講) 2-2-4 (教授 松井 源 吾)
(講師 田治見 宏)

弾性地盤および液体の波動について論じ、これらと構造物の関連についてのべる(田治見)

材料力学の補講として、単純応力、曲げ、ねじり、応力集中、熱応力、材料の破損について詳細に説明し、併せて光弾性との関連をのべる。(松井)

L3011 振動論 (講) 2-2-4 (教授 竹内 盛雄)

構造物振動の基礎的事項に重点を置き、振動の性状を充分理解させるために具体的な応用との関連を持たせる。内容は次のとおりである。一般弾性体の振動および構造物の振動性状について説明し、その応用を述べる。

L3012 建築基礎工学 (講) 2-2-4 (教授 古藤田 喜久雄)
(講師 杉 村 義 広)

近代土質力学に基き各種地盤の物理的、力学的性質を明らかにし、地中の応力分布、粘土層の圧密、地盤およびクイの支持力などを説明し、構造の沈下、傾斜などの障害を起さない適当な基礎構造の選択とその設計、施工に重要な事項について述べる。

選択上の注意：学部・専門学科卒業程度の建築基礎工学の知識を持つことが望ましい。

L3013 地震学 (講) 2-0-2 (講師 嶋 悦 三)

最近における地震学の成果をふまえつつ、震源モデルにはじまり、そこから放出された地震波がどのように伝わり、地表付近に到達した地震波が地下構造の差異によりどのように変形されるか等、震源からサイトに至る地震波の挙動について講義する。なお、受講にあたって、特に予備知識は必要としない。

おける上部構造と下部構造との関連について)が主要な考察の対象となるはずである。

L3002 建築美学および建築論 (講) 2-2-4 (助教授 中川 武)
(講師 上松 佑二)

「よい建築」であることの判断の根拠において、建築美学および建築論の占める役割は大きい。近代建築における方法論史の具体的展開として構述する。

L3003 建築計画 (講) 2-2-4 (教授 安東 勝男, 穂積 信夫)
(講師 池原 義郎)

各教員が分担し、現代建築の展望批判、あるいは作家、作品の研究または設計理論について解説討論を行う。

選択上の注意：建築設計の経験を有すること。

L3004 建築設計計画理論 (講) 2-2-4 (助教授 渡辺 仁史)
(講師 中村 良三)

人間にとって好ましくない空間的狀況を回避するためには、まず空間と人間の相互関係の現状を理解し、そして新しく提案する人間-空間のシステムを活用するモデルを作る必要がある。ここではそうした理解や想像的行動が特に問われる建設の企画段階で重要なテーマとなる施設規模、配置、経路問題決定のためのモデルを中心にして考えてみたい。また、実際に演習を通して理解を深める。

L3005 都市計画特論B (講) 2-0-2 (講師 田村 明)

L3006 都市計画特論C (講) 0-2-2 (未 定)

L3007 都市計画特論D (講) 0-2-2 (教授 戸沼 幸市)

(スケール論を基礎とした都市設計論)

人間尺度論を基礎にして人間の居住環境の設計方法をゼミナール形式で問題にする。

L3008 建築構造A (講) 2-2-4 (教授 谷 資信)
(講師 桜井 謙爾)

主として、耐震構造に関する基礎的事項について述べる。

内容としては、耐震理論、耐震計画、耐震設計、弾塑性構造解析などが含まれている。

選択上の注意：学部における専門選択科目のうち、建築構造力学(II)、建築振動学、地震工学および構造設計(A)、(B)、(C)、建築構造計画、構造実習を履修していることが望ましい。

同1982年度

L3009 建築構造B (講) 2-2-4 (教授 田中 弥寿雄)
(講師 堀江 文雄)

曲面論にもとづき、弾性論の一般基礎方程式を誘導し、特定のシェルについて実用的な各種解法を述べる(田中)。また、特殊な架構理論とその応用に関して詳述する(竹内)。

選択上の注意：学部における専門選択科目のうち、建築構造力学(II)構造実習(A)、(B)を履修していることが望ましい。

L3010 建築構造C (講) 2-2-4 (教授 松井 源吾)
(講師 田治見 宏)

弾性地盤および液体の波動について論じ、これらと構造物の関連についてのべる(田治見)

材料力学の補講として、単純応力、曲げ、ねじり、応力集中、熱応力、材料の破損について詳細に説明し、併せて光弾性との関連をのべる。(松井)

L3011 振動論 (講) 2-2-4 (講師 森岡 敬樹)

構造物振動の基礎的事項に重点を置き、振動の性状を充分理解させるために具体的な応用との関連を持たせる。内容は次のとおりである。一般弾性体の振動および構造物の振動性状について説明し、その応用を述べる。

L3012 建築基礎工学 (講) 2-2-4 (教授 古藤田 喜久雄)
(講師 杉村 義広)

基礎地盤の物理的、力学的諸性質およびその調査法に関する問題点、弾性理論による地中の応力およびひずみ分布と地盤反力係数理論との関係、直接基礎およびくい基礎の鉛直方向および水平方向支持力の問題、さらに基礎の動的な問題として、地盤の震害、くいの基礎の地震時の挙動について考え講述する。

L3013 地震学 (講) 2-0-2 (講師 嶋 悦三)

最近における地震学の成果をふまえつつ、震源モデルにはじまり、そこから放出された地震波がどのように伝わり、地表付近に到達した地震波が地下構造の差異によりどのように変形されるか等、震源からサイトに至る地震波の挙動について講義する。なお、受講にあたって、特に予備知識は必要としない。

L3014 建築設備工学 (講) 2-0-2 (教授 井上 宇市)

建築設備のより高度の技術を学修するために配管内の圧力変化、機器と配管系の圧力バランス、省エネルギー方式、地域暖冷房、空気調和機器内の物質移動などについて講述す

における上部構造と下部構造との関連について)が主要な考察の対象となるはずである。

L3002 建築美学および建築論 (講) 2-2-4 (助教授 中川 武)
(講師 上松 佑二)

「よい建築」であることの判断の根拠において、建築美学および建築論の占める役割は大きい。近代建築における方法論史の具体的展開として構述する。

L3003 建築計画 (講) 2-2-4 (教授 安東 勝男, 穂積 信夫)
(講師 池原 義郎)

各教員が分担し、現代建築の展望批判、あるいは作家、作品の研究または設計理論について解説討論を行う。

選択上の注意：建築設計の経験を有すること。

L3004 建築設計計画理論 (講) 2-2-4 (助教授 渡辺 仁史)
(講師 中村 良三)

人間にとって好ましくない空間的状况を回避するためには、まず空間と人間の相互関係の現状を理解し、そして新しく提案する人間-空間のシステムを活用するモデルを作る必要がある。ここではそうした理解や想像的行動が特に問われる建設の企画段階で重要なテーマとなる施設規模、配置、経路問題決定のためのモデルを中心にして考えてみたい。また、実際に演習を通して理解を深める。

L3005 都市計画特論B (講) 0-2-2 (講師 田村 明)

広い視野から、都市計画を具体的にすすめるなかでの理論と実際のギャップ、現代都市の矛盾について考察する。さらに都市づくりの実践的な手法を受講者とともに探索する。

L3006 都市計画特論C (講) 0-2-2 (未 定)

L3007 都市計画特論D (講) 2-0-2 (教授 戸沼 幸市)

(スケール論を基礎とした都市設計論)

人間尺度論を基礎にして人間の居住環境の設計方法をゼミナール形式で問題にする。

L3008 建築構造A (講) 2-2-4 (教授 谷 資信)
(講師 桜井 譲爾)

主として、耐震構造に関する基礎的事項について述べる。

内容としては、耐震理論、耐震計画、耐震設計、弾塑性構造解析などが含まれている。

選択上の注意：学部における専門選択科目のうち、建築構造力学(II)、建築振動学、地震工学および構造設計(A)、(B)、(C)、建築構造計画、構造実習を履修していることが望ましい。

同1983年度

L3009 建築構造B (講) 2-2-4 (教授 田中 弥寿雄)
(講師 堀江 文雄)

曲面論にもとづき、弾性論の一般基礎方程式を誘導し、各種解法について述べ、また塑性論に基づく解説を行う(田中)。種々の形式にて表現された仮想仕事の原理を、構造物系の弾性解析および弾塑性解析に応用する仕方と解析例を説明する(堀江)。

選択上の注意：学部における専門選択科目のうち、建築構造力学(II)構造実習(A)、(B)を履修していることが望ましい。

L3010 建築構造C (講) 2-2-4 (教授 松井 源吾)
(講師 田治見 宏)

弾性地盤および液体の波動について論じ、これらと構造物の関連についてのべる(田治見)

材料力学の補講として、単純応力、曲げ、ねじり、応力集中、熱応力、材料の破損について詳細に説明し、併せて光弾性との関連をのべる。(松井)

L3011 振動論 (講) 2-2-4 (講師 森岡 敬樹)

構造物振動の基礎的事項に重点を置き、振動の性状を充分理解させるために具体的な応用との関連を持たせる。内容は次のとおりである。一般弾性体の振動および構造物の振動性状について説明し、その応用を述べる。

L3012 建築基礎工学 (講) 2-2-4 (教授 古藤田 喜久雄)
(講師 杉村 義広)

基礎地盤の物理的、力学的諸性質およびその調査法に関する問題点、弾性理論による地中の応力およびひずみ分布と地盤反力係数理論との関係、直接基礎およびくい基礎の鉛直方向および水平方向支持力の問題、さらに基礎の動的な問題として、地盤の震害、くい基礎の地震時の挙動について考え講述する。

L3013 地震学 (講) 2-0-2 (講師 嶋 悦三)

最近における地震学の成果をふまえて、震源モデルにはじまり、そこから放出された地震波がどのように伝わり、地表付近に到達した地震波が地下構造の差異によりどのように変形されるか等、震源からサイトに至る地震波の挙動について講義する。なお、受講にあたって、特に予備知識は必要としない。

L3014 建築設備工学 (講) 2-0-2 (教授 井上 宇市)

建築設備のより高度の技術を学修するために配管内の圧力変化、機器と配管系の圧力バランス、省エネルギー方式、地域暖冷房、空気調和機器内の物質移動などについて講述す

における上部構造と下部構造との関連について)が主要な考察の対象となるはずである。

L3002 建築美学および建築論 (講) 2-2-4 (助教授 中川 武)
(講師 上松 佑二)

「よい建築」であることの判断の根拠において、建築美学および建築論の占める役割は大きい。近代建築における方法論史の具体的展開として構述する。

L3003 建築計画 (講) 2-2-4 (教授 安東 勝男, 穂積 信夫)
(講師 池原 義郎)

各教員が分担し、現代建築の展望批判、あるいは作家、作品の研究または設計理論について解説討論を行う。

選択上の注意：建築設計の経験を有すること。

L3004 建築設計計画理論 (講) 2-2-4 (助教授 渡辺 仁史)
(講師 中村 良三)

人間にとって好ましくない空間的狀況を回避するためには、まず空間と人間の相互関係の現状を理解し、そして新しく提案する人間-空間のシステムを活用するモデルを作る必要がある。ここではそうした理解や想像的行動が特に問われる建設の企画段階で重要なテーマとなる施設規模、配置、経路問題決定のためのモデルを中心にして考えてみたい。また、実際に演習を通して理解を深める。

L3005 都市計画特論B (講) 0-2-2 (講師 田村 明)

現代都市はさまざまな矛盾をたえず発生させる。しかし、多くの人々は都市を離れて生活することはできない。したがって矛盾を冷静に見極めながら、これを解決し、さらによりよい生活を求める都市づくりが必要である。いまのところ都市計画の理論と都市の現実にはかなりのギャップがあるが、実践の中で新しい都市づくりの方法を探索したい。一方的な講義ではなく、受講者との討論のなかでこれらの課題を検討したい。

L3006 都市計画特論C (講) 0-2-2 (助教授 佐藤 滋)

L3007 都市計画特論D (講) 2-0-2 (教授 戸沼 幸市)

(スケール論を基礎とした都市設計論)

人間尺度論を基礎にして人間の居住環境の設計方法をセミナー形式で問題にする。

L3008 建築構造A (講) 2-2-4 (教授 谷 資信)
(講師 桜井 譲爾)

主として、耐震構造に関する基礎的事項について述べる。

内容としては、耐震理論、耐震計画、耐震設計、弾塑性構造解析などが含まれている。

同1984年度

選択上の注意：学部における専門選択科目のうち、建築構造力学(II)、建築振動学、地震工学および構造設計(A)、(B)、(C)、建築構造計画、構造実習を履修していることが望ましい。

L3009 建築構造B (講) 2-2-4 (教授 田中 弥寿雄)
(講師 堀江 文雄)

曲面論にもとづき、弾性論の一般基礎方程式を誘導し、各種解法について述べ、また塑性論に基く解説を行う(田中)。種々の形式にて表現された仮想仕事の原理を、構造物系の弾性解析および弾塑性解析に応用する仕方と解析例を説明する(堀江)。

選択上の注意：学部における専門選択科目のうち、建築構造力学(II)構造実習(A)、(B)を履修していることが望ましい。

L3010 建築構造C (講) 2-2-4 (教授 松井 源吾)
(講師 田治見 宏)

弾性地盤および液体の波動について論じ、これらと構造物の関連についてのべる(田治見)

材料力学の補講として、単純応力、曲げ、ねじり、応力集中、熱応力、材料の破損について詳細に説明し、併せて光弾性との関連をのべる。(松井)

L3011 振動論 (講) 2-2-4 (講師 森岡 敬樹)

構造物振動の基礎的事項に重点を置き、振動の性状を充分理解させるために具体的な応用との関連を持たせる。内容は次のとおりである。一般弾性体の振動および構造物の振動性状について説明し、その応用を述べる。

L3012 建築基礎工学 (講) 2-2-4 (教授 古藤田 喜久雄)
(講師 杉村 義広)

基礎地盤の物理的、力学的諸性質およびその調査法に関する問題点、弾性理論による地中の応力およびひずみ分布と地盤反力係数理論との関係、直接基礎およびくい基礎の鉛直方向および水平方向支持力の問題、さらに基礎の動的問題として、地盤の震害、くい基礎の地震時の挙動について考え講述する。

L3013 地震学 (講) 2-0-2 (講師 笠原 慶一)

最近における地震学の成果をふまえて、震源モデルにはじまり、そこから放出された地震波がどのように伝わり、地表付近に到達した地震波が地下構造の差異によりどのように変形されるか等、震源からサイトに至る地震波の挙動について講義する。なお、受講にあたって、特に予備知識は必要としない。

同 1985年度

R3015 建築設備研究 (教授 井上 宇市)

建築設備工学に関する高級技術者および研究者の養成を目標とする。すなわち各種の実験、実習、演習を行い、学部において学修した設備工学の基礎知識の把握を確実なものとすると同時に、より高度の技術を研修する。

研究課題としては、電算機による機器のシミュレーション、室内空気分布、設備システムの最適設計、電算機制御などを対象とする。

選択上の注意：空気調和および設備実習を履修していること。

R3016 建築環境研究 (教授 木村 建一)

建築環境設計に関する研究を行う。環境問題・エネルギー問題に対処しつつ、特に熱環境の調整や自然エネルギー利用の研究に重点を置いている。学部において、環境工学関係の科目を多く習得していることが望ましい。

R3017 都市環境研究 (教授 尾島 俊雄)

建築・都市・社会システムのあり方と実態を研究することで、特に問題が顕著化してきた都市の環境問題を学ぶ。学部においては環境計測、設備実習、広域環境論などを選択しておくことが望ましい。

R3018 建築材料及施工研究 (教授 田村 恭)

建築生産の基本となる建築材料、施工法並びにこれに関連する諸技術について、調査や研究を行なう。特に建築材料に関しては、各種の材料の特性について理論的ならびに実験的研究を行う。また、建築施工に関しては、建築産業の正しい発展の姿を志向しつつ、資材・労務の在り方、生産システムをめぐる諸問題について、経営工学的な追究をする。

R3019 建築材料及施工研究 (教授 神山 幸弘)

建築物の実体として構法をとらえ、構法計画のプロセス、性能、各部位構法、工業化構法、生産性など構法設計の原理とその実際について考究する。

R3020 建築材料及施工研究 (助教授 嘉納 成男)

建築工事における計画、管理をめぐるシステムズアプローチ、OR技法の理論と実際の研究を通じ、建築工事マネジメント・システムの在り方並びにその確立に要求される法論を考究する。

L3001 建築史 (講) 2-2-4 (教授 渡辺 保忠)

建築生産史を講述する。一般に考えられる狭義の〈生産史〉の範囲ではなく、〈建築における上部構造と下部構造との関連について〉が主要な考察の対象となるはずである。

L3002 建築美学および建築論 (講) 2-2-4 (助教授 中川 武)
(講師 上松 佑二)

「よい建築」であることの判断の根拠において、建築美学および建築論の占める役割は大きい。近代建築における方法論史の具体的展開として講述する。

L3003 建築計画 (講) 2-2-4 (教授 安東 勝男, 穂積 信夫)
(講師 池原 義郎)

各教員が分担し、現代建築の展望批判、あるいは作家、作品の研究または設計理論について解説討論を行う。

選択上の注意：建築設計の経験を有すること。

L3004 建築設計計画理論 (講) 2-2-4 (助教授 渡辺 仁史)
(講師 中村 良三)

人間にとって好ましくない空間的状况を回避するためには、まず空間と人間の相互関係の現状を理解し、そして新しく提案する人間-空間のシステムを活用するモデルを作る必要がある。ここではそうした理解や想像的行動が特に問われる建設の企画段階で重要なテーマとなる施設規模、配置、経路問題決定のためのモデルを中心にして考えてみたい。また、実際に演習を通して理解を深める。

L3005 都市計画特論B (講) 0-2-2 (講師 田村 明)

現代都市はさまざまな矛盾をたえず発生させる。しかし、多くの人々は都市を離れて生活することはできない。したがって矛盾を冷静に見極めながら、これを解決し、さらによりよい生活を求める都市づくりが必要である。いまのところ都市計画の理論と都市の現実にはかなりのギャップがあるが、実践の中で新しい都市づくりの方法を探索したい。一方的な講義ではなく、受講者との討論のなかでこれらの課題を検討したい。

L3006 都市計画特論C (講) 0-2-2 (助教授 佐藤 滋)

L3007 都市計画特論D (講) 2-0-2 (教授 戸沼 幸市)

(スケール論を基礎とした都市設計論)
人間尺度論を基礎にして人間の居住環境の設計方法をゼミナール形式で問題にする。

L3008 建築構造A (講) 2-2-4 (教授 谷 資信)
(講師 椛井 譲爾)

主として、耐震構造に関する基礎的事項について述べる。
内容としては、耐震理論、耐震計画、耐震設計、弾塑性構造解析などが含まれている。
選択上の注意：学部における専門選択科目のうち、建築構造力学(II)、建築振動学、地

力学的問題については、がけ災害の問題なども対象とするほか、地震時について地盤震害など、防災的見地による問題を研究の対象とする。

R 3015 建築設備研究 (教授 井上 宇市)

建築設備工学に関する高級技術者および研究者の養成を目標とする。すなわち各種の実験、実習、演習を行い、学部において学修した設備工学の基礎知識の把握を確実なものとすると同時に、より高度の技術を研修する。

研究課題としては、電算機による機器のシミュレーション、室内空気分布、設備システムの最適設計、電算機制御などを対象とする。

選択上の注意：空調機および設備実習を履修していること。

R 3016 建築環境研究 (教授 木村 建一)

建築環境設計に関する研究を行う。環境問題・エネルギー問題に対処しつつ、特に熱環境の調整や自然エネルギー利用の研究に重点を置いている。学部において、環境工学関係の科目を多く習得していることが望ましい。

R 3017 都市環境研究 (教授 尾島 俊雄)

建築・都市・社会システムのあり方と実態を研究することで、特に問題が顕著化してきた都市の環境問題を学ぶ。学部においては環境計測、設備実習、広域環境論などを選択しておくことが望ましい。

R 3018 建築材料及施工研究 (教授 田村 恭)

建築生産の基本となる建築材料、施工法並びにこれに関連する諸技術について、調査や研究を行なう。特に建築材料に関しては、各種の材料の特性について理論的ならびに実験的研究を行う。また、建築施工に関しては、建築産業の正しい発展の姿を志向しつつ、資材・労務の在り方、生産システムをめぐる諸問題について、経営工学的な追究をする。

R 3019 建築材料及施工研究 (教授 神山 幸弘)

建築物の実体として構法をとらえ、構法計画のプロセス、性能、各部位構法、工業化構法、生産性など構法設計の原理とその実際について考究する。

R 3020 建築材料及施工研究 (助教授 嘉納 成男)

建築工事における計画、管理をめぐるシステムズアプローチ、OR技法の理論と実際の研究を通じ、建築工事マネジメント・システムの在り方並びにその確立に要求される法論を考究する。

同 1986年度

L 3001 建築史 (講) 2-2-4 (教授 渡辺 保忠)

建築生産史を講述する。一般に考えられる狭義の〈生産史〉の範囲ではなく、〈建築における上部構造と下部構造との関連について〉が主要な考察の対象となるはずである。

L 3002 建築美学および建築論 (講) 2-2-4 (教授 中川 武)
(講師 上松 佑二)

「よい建築」であることの判断の根拠において、建築美学および建築論の占める役割は大きい。近代建築における方法論史の具体的展開として講述する。

L 3003 建築計画 (講) 2-2-4 (教授 安東 勝男, 穂積 信夫)
(池原 義郎)

各教員が分担し、現代建築の展望批判、あるいは作家、作品の研究または設計理論について解説討論を行う。

選択上の注意：建築設計の経験を有すること。

L 3004 建築設計計画理論 (講) 2-2-4 (教授 渡辺 仁史)
(講師 中村 良三)

人間にとって好ましくない空間的狀況を回避するためには、まず空間と人間の相互関係の現状を理解し、そして新しく提案する人間-空間のシステムを活用するモデルを作る必要がある。ここではそうした理解や想像的行動が特に問われる建設の企画段階で重要なテーマとなる施設規模、配置、経路問題決定のためのモデルを中心にして考えてみたい。また、実際に演習を通して理解を深める。

L 3005 都市計画特論B (講) 6-2-2 (講師 田村 明)

現代都市はさまざまな矛盾をたえず発生させる。しかし、多くの人々は都市を離れて生活することはできない。したがって矛盾を冷静に見極めながら、これを解決し、さらによりよい生活を求める都市づくりが必要である。いまのところ都市計画の理論と都市の現実にはかなりのギャップがあるが、実践の中で新しい都市づくりの方法を探索したい。一方的な講義ではなく、受講者との討論のなかでこれらの課題を検討したい。

L 3006 都市計画特論C (講) 0-2-2 (助教授 佐藤 滋)

地区レベルの居住環境改善計画の具体的事例をとり上げて、個々の事例ごとに問題の発生からそれへの対処、その成果等を分析し、各自の視点で今後の解決策を提示する。これらを通して、都市計画理念と方法論の展開過程を理解し、これからのあり方を追求する。

L 3007 都市計画特論D (講) 2-0-2 (教授 戸沼 幸市)

(スケール論を基礎とした都市設計論)

E 210 建築史 (講) 2-2-4 (教授 渡辺 保 忠)

建築生産史を講述する。一般に考えられる狭義の〈生産史〉の範囲ではなく、〈建築における上部構造と下部構造との関連について〉が主要な考察の対象となるはずである。

E 220 建築美学および建築論 (講) 2-2-4 (教授 中川 武)
(講師 上松 佑二)

「よい建築」であることの判断の根拠において、建築美学および建築論の占める役割は大きい。近代建築における方法論史の具体的展開として講述する。

E 230 建築計画 (講) 2-2-4 (教授 安東 勝男, 穂積 信夫)
(講師 池原 義郎)

各教員が分担し、現代建築の展望批判、あるいは作家、作品の研究または設計理論について解説討論を行う。

選択上の注意：建築設計の経験を有すること。

E 240 建築設計計画理論 (講) 2-2-4 (教授 渡辺 仁 史)
(講師 中村 良 三)

人間にとって好ましくない空間的状况を回避するためには、まず空間と人間の相互関係の現状を理解し、そして新しく提案する人間-空間のシステムを活用するモデルを作る必要がある。ここではそうした理解や想像的行動が特に問われる建設の企画段階で重要なテーマとなる施設規模、配置、経路問題決定のためのモデルを中心にして考えてみたい。また、実際に演習を通して理解を深める。

E 250 都市計画特論 B (講) 0-2-2 (講師 田村 明)

現代都市はさまざまな矛盾をたえず発生させる。しかし、多くの人々は都市を離れて生活することはできない。したがって矛盾を冷静に見極めながら、これを解決し、さらによりよい生活を求める都市づくりが必要である。いまのところ都市計画の理論と都市の現実にはかなりのギャップがあるが、実践の中で新しい都市づくりの方法を探索したい。一方的な講義ではなく、受講者との討論のなかでこれらの課題を検討したい。

E 251 都市計画特論 C (講) 0-2-2 (助教授 佐藤 滋)

地区レベルの居住環境改善計画の具体的事例をとり上げて、個々の事例ごとに問題の発生からそれへの対処、その成果等を分析し、各自の視点で今後の解決策を提示する。これらを通して、都市計画理念と方法論の展開過程を理解し、これからのあり方を追求する。

E 252 都市計画特論 D (講) 2-0-2 (教授 戸 沼 幸 市)

(スケール論を基礎とした都市設計論)

同 1987年度

人間尺度論を基礎にして人間の居住環境の設計方法をゼミナール形式で問題にする。

E 260 建築構造 A (講) 2-2-4 (教授 谷 資 信)
(講師 桜 井 譲 爾)

主として、耐震構造に関する基礎的事項について述べる。

内容としては、耐震理論、耐震計画、耐震設計、弾塑性構造解析などが含まれている。

選択上の注意：学部における専門選択科目のうち、建築構造力学(Ⅱ)、建築振動学、地震工学および構造設計(A)、(B)、(C)、建築構造計画、構造実習を履修していることが望ましい。

E 261 建築構造 B (講) 2-2-4 (教授 田中 弥 寿 雄)
(講師 堀 江 文 雄)

曲面論にもとづき、弾性論の一般基礎方程式を誘導し、各種解法について述べ、また塑性論に基く解説を行う(田中)。種々の形式にて表現された仮想仕事の原理を、構造物系の弾性解析および弾塑性解析に応用する仕方と解析例を説明する(堀江)。

選択上の注意：学部における専門選択科目のうち、建築構造力学(Ⅱ)構造実習(A)、(B)を履修していることが望ましい。

E 262 建築構造 C (講) 2-2-4 (教授 松 井 源 吾)
(講師 田 治 見 宏)

建築構造物の地震応答解析に関連する各種の動的問題、および、地盤における波動伝ばについて述べる。(田治見)

材料力学の補講として、単純応力、曲げ、ねじり、応力集中、熱応力、材料の破損について詳細に説明し、併せて光弾性との関連をのべる。(松井)

E 270 振 動 論 (講) 0-2-2 (講師 山 本 鎮 男)

E 280 建築基礎工学 (講) 2-2-4 (教授 古藤田 喜久雄)
(講師 杉 村 義 広)

基礎地盤の物理的、力学的諸性質およびその調査法に関する問題点、弾性理論による地中の応力およびひずみ分布と地盤反力係数理論との関係、直接基礎およびくい基礎の鉛直方向および水平方向支持力の問題、さらに基礎の動的問題として、地盤の震害、くい基礎の地震時の挙動について考え講述する。

E 290 地 震 学 (講) 2-0-2 (講師 笠 原 慶 一)

最近における地震学の成果をふまえつつ、震源モデルにはじまり、そこから放出された地震波がどのように伝わり、地表付近に到達した地震波が地下構造の差異によりどのように変形されるか等、震源からサイトに至る地震波の挙動について講義する。なお、受講に

Ⅱ220 建築美学および建築論 (講) 2-2-4 (教授 中川 武)
(講師 上松 佑二)

「よい建築」であることの判断の根拠において、建築美学および建築論の占める役割は大きい。近代建築における方法論史の具体的展開として講述する。

Ⅱ230 建築計画A (講) 0-2-2 (教授 石山 修武)

Ⅱ231 建築計画B (講) 0-2-2 (教授 穂積 信夫)

クラスに参加する各自の学部卒業計画を紹介し、その作品を通して設計方法と表現を検討する。その過程において、他の建築家の作品を例証し、時代の表現としての意味を討論する。設計を専攻する学生のセミナー形式で授業を行う。

Ⅱ232 建築計画C (講) 2-0-2 (教授 池原 義郎)

Ⅱ240 建築設計計画理論 (講) 2-2-4 (教授 渡辺 仁史)
(講師 中村 良三)

人間にとって好ましくない空間的状况を回避するためには、まず空間と人間の相互関係の現状を理解し、そして新しく提案する人間—空間のシステムを活用するモデルを作る必要がある。ここではそうした理解や創造的行動が特に問われる建設の企画段階で重要なテーマとなる施設規模、配置、経路問題決定のためのモデルを中心にして考えてみたい。また、実際に演習を通して理解を深める。

Ⅱ250 都市計画特論B (講) 0-2-2 (講師 田村 明)

現代都市はさまざまな矛盾をたえず発生させる。しかし、多くの人々は都市を離れて生活することはできない。したがって矛盾を冷静に見極めながら、これを解決し、さらによりよい生活を求める都市づくりが必要である。いまのところ都市計画の理論と都市の現実にはかなりのギャップがあるが、実践の中で新しい都市づくりの方法を探索したい。一方的な講義ではなく、受講者との討論のなかでこれらの課題を検討したい。

Ⅱ251 都市計画特論C (講) 0-2-2 (助教授 佐藤 滋)

地区レベルの居住環境改善計画の具体的事例をとり上げて、個々の事例ごとに問題の発生からそれへの対処、その成果等を分析し、各自の視点で今後の解決策を提示する。これらを通して、都市計画理念と方法論の展開過程を理解し、これからのあり方を追求する。

Ⅱ252 都市計画特論D (講) 2-0-2 (教授 戸沼 幸市)

(スケール論を基礎とした都市設計論)

人間尺度論を基礎にして人間の居住環境の設計方法をセミナー形式で問題にする。

同 1988

Ⅱ260 建築構造A (講) 2-2-4 (教授 谷 資信)
(講師 桜井 譲爾)

主として、耐震構造に関する基礎的事項について述べる。

内容としては、耐震理論、耐震計画、耐震設計、弾塑性構造解析などが含まれている。

選択上の注意：学部における専門選択科目のうち、建築構造力学(Ⅱ)、建築振動学、地震工学および構造設計(A)、(B)、(C)、建築構造計画、構造実習を履修していることが望ましい。

Ⅱ261 建築構造B (講) 2-2-4 (教授 田中 弥寿雄)
(講師 堀江 文雄)

曲面論にもとづき、弾性論の一般基礎方程式を誘導し、各種解法について述べ、また塑性論に基く解説を行う(田中)。種々の形式にて表現された仮想仕事の原理を、構造物系の弾性解析および弾塑性解析に応用する仕方と解析例を説明する(堀江)。

選択上の注意：学部における専門選択科目のうち、建築構造力学(Ⅱ) 構造実習(A)、(B)を履修していることが望ましい。

Ⅱ262 建築構造C (講) 2-2-4 (教授 松井 源吾)
(講師 田治見 宏)

建築構造物の地震応答解析に関連する各種の動的問題、および、地盤における波動伝ばについて述べる。(田治見)

材料力学の補講として、単純応力、曲げ、ねじり、応力集中、熱応力、材料の破損について詳細に説明し、併せて光弾性との関連をのべる。(松井)

Ⅱ270 振動論 (講) 0-2-2 (教授 風間 了)

多自由度系の振動を仮想仕事の原理を用いて記述して、これを一般座標で表わすことによりラグランジュの運動方程式を誘導する。ラグランジュの運動方程式を活用して、各種の運動方程式の導入の手法を示す。

モードの直交性を証明して、このモードの直交性を応用して各種の多自由度系(絃、縦振れ、剪断、曲げ等)のモーダル解析の手法を明らかにする。

Ⅱ280 建築基礎工学 (講) 2-2-4 (教授 古藤田 喜久雄)

基礎地盤の物理的、力学的諸性質およびその調査法に関する問題点、弾性理論による地中の応力およびひずみ分布と地盤反力係数理論との関係、直接基礎およびくい基礎の鉛直方向および水平方向支持力の問題、さらに基礎の動的問題として、地盤の震害、くい基礎の地震時の挙動について考え講述する。

同 1989

E 045 建築構造研究 (助教授 西谷 章)

建築構造物の設計にかかわる諸問題について研究する。
直交異方性弾性力学問題、構造信頼性工学に基づいた合理的設計法、設計荷重の組み合わせ問題、不規則振動問題を研究対象とする。

E 050 建築設備研究 (未 定)

E 051 建築環境研究 (教授 木村 建一)

建築環境設計に関する研究を行う。環境問題・エネルギー問題に対処しつつ、特に熱環境の調整と体感評価および自然エネルギー利用の研究に重点を置いている。学部において、環境工学関係の科目を多く習得していることが望ましい。

E 052 都市環境研究 (教授 尾島 俊雄)

建築・都市・社会システムのあり方と実態を研究することで、特に問題が顕著化してきた都市の環境問題を学ぶ。学部においては環境計測、設備実習、広域環境論などを選択しておくことが望ましい。

E 060 建築材料及施工研究 (教授 田村 恭)

建築生産の基本となる建築材料、施工法並びにこれに関連する諸技術について、調査や研究を行なう。特に建築材料に関しては、各種の材料の特性について理論的ならびに実験的研究を行う。また、建築施工に関しては、建築産業の正しい発展の姿を志向しつつ、資材・労務の在り方、生産システムをめぐる諸問題について、経営工学的な追究をする。

E 061 建築材料及施工研究 (教授 神山 幸弘)

建築物の実体として構法をとらえ、構法計画のプロセス、性能、各部位構法、工業化構法、生産性など構法設計の原理とその実際について考究する。

E 062 建築材料及施工研究 (教授 嘉納 成男)

建築工事における計画、管理をめぐるシステムズアプローチ、OR技法の理論と実際の研究を通じ、建築工事マネージメント・システムの在り方並びにその確立に要求される法論を考究する。

E 210 建築史 (講) 2-2-4 (教授 渡辺 保忠)

建築生産史を講述する。一般に考えられる狭義の〈生産史〉の範囲ではなく、〈建築における上部構造と下部構造との関連について〉が主要な考察の対象となるはずである。

E 220 建築美学および建築論 (講) 2-2-4 (教授 中川 武)
(講師 上松 佑二)

「よい建築」であることの判断の根拠において、建築美学および建築論の占める役割は大きい。近代建築における方法論史の具体的展開として講述する。

E 230 建築計画 A (講) 2-0-2 (教授 石山 修武)

E 231 建築計画 B (講) 0-2-2 (教授 穂積 信夫)

クラスに参加する各自の学部卒業計画を紹介し、その作品を通して設計方法と表現を検討する。その過程において、他の建築家の作品を例証し、時代の表現としての意味を討論する。設計を専攻する学生のセミナー形式で授業を行う。

E 232 建築計画 C (講) 2-0-2 (教授 池原 義郎)

E 240 建築設計計画理論 (講) 2-2-4 (教授 渡辺 仁史)
(講師 中村 良三)

人間にとって好ましくない空間的状况を回避するためには、まず空間と人間の相互関係の現状を理解し、そして新しく提案する人間-空間のシステムを活用するモデルを作る必要がある。ここではそうした理解や創造的行動が特に問われる建設の企画段階で重要なテーマとなる施設規模、配置、経路問題決定のためのモデルを中心にして考えてみたい。また、実際に演習を通して理解を深める。

E 250 都市計画特論 B (講) 0-2-2 (講師 田村 明)

現代都市はさまざまな矛盾をたえず発生させる。しかし、多くの人々は都市を離れて生活することはできない。したがって矛盾を冷静に見極めながら、これを解決し、さらによりよい生活を求める都市づくりが必要である。いまのところ都市計画の理論と都市の現実にはかなりのギャップがあるが、実践の中で新しい都市づくりの方法を探索したい。一方的な講義ではなく、受講者との討論のなかでこれらの課題を検討したい。

E 251 都市計画特論 C (講) 0-2-2 (助教授 佐藤 滋)

地区レベルの居住環境改善計画の具体的事例をとり上げて、個々の事例ごとに問題の発生からそれへの対処、その成果等を分析し、各自の視点で今後の解決策を提示する。これらを通して、都市計画理念と方法論の展開過程を理解し、これからのあり方を追求する。

E 045 建築構造研究 (助教授 西谷 章)

建築構造物の設計にかかわる諸問題について研究する。
直交異方性弾性力学問題、構造信頼性工学に基づいた合理的設計法、設計荷重の組み合わせ、不規則振動理論によるシミュレーションを研究対象とする。

E 050 建築設備研究 (教授 石福 昭)

建築設備システムの計画・設計とその評価の手法について、最近の傾向、問題点などを中心に内外の実施例・文献などを通して研究する。

E 051 建築環境研究 (教授 木村 建一)

建築環境設計に関する研究を行う。環境問題・エネルギー問題に対処しつつ、特に熱環境の調整と体感評価および自然エネルギー利用の研究に重点を置いている。学部において、環境工学関係の科目を多く習得していることが望ましい。

E 052 都市環境研究 (教授 尾島 俊雄)

建築・都市・社会システムのあり方と実態を研究することで、特に問題が顕著化してきた都市の環境問題を学ぶ。学部においては環境計測、広域環境論などを選択しておくことが望ましい。

E 060 建築材料及施工研究 (教授 田村 恭)

建築生産の基本となる建築材料、施工法並びにこれに関連する諸技術について調査や研究を行なう。特に建築材料に関しては、各種の材料の特性について理論的ならびに実験的研究を行う。また建築施工に関しては、建築産業の正しい発展の姿を志向しつつ、資材・労務の在り方、生産システムをめぐる諸問題について経営工学的な研究をする。

E 061 建築材料及施工研究 (教授 神山 幸弘)

建築物の実体として構法をとらえ、構法計画のプロセス、性能、各部位構法、工業化構法、生産性など構法設計の原理とその実際について考究する。

E 062 建築材料及施工研究 (教授 嘉納 成男)

建築工事における計画、管理をめぐるシステムズアプローチ、OR技法の理論と実際の研究を通じ、建築工事マネージメント・システムの在り方並びにその確立に要求される方法論を考究する。

E 210 建築史 (講) 2-2-4 (教授 渡辺 保忠)

建築生産史を講述する。一般に考えられる狭義の〈生産史〉の範囲ではなく、〈建築に

同 1990

おける上部構造と下部構造との関連について〉が主要な考察の対象となるはずである。

E 220 建築美学および建築論 (講) 2-2-4 (◎教授 中川 武)
(◎講師 上松 佑二)

前期は建築空間論史の体系的講述。後期は日本の古典建築および現代建築を題材として建築論の基本的問題を講述する。

E 230 建築計画 A (講) 2-0-2 (教授 石山 修武)

E 231 建築計画 B (講) 0-2-2 (教授 穂積 信夫)

近代建築の様々な潮流に見られた思想的、理論背景を探り、その主張と作品を分析する。各自テーマを分担し、これをセミナー形式で発表、討議する。

E 232 建築計画 C (講) 2-0-2 (教授 池原 義郎)

E 240 建築設計計画理論 (講) 2-2-4 (教授 渡辺 仁史)
(講師 中村 良三)

ホテル、ショップ、住宅、工場等が一体のものとして総合的に複雑にからみあったプロジェクト、ウォーターフロントの倉庫の再利用のプロジェクト、過疎地のリゾート開発等、社会が豊かになり、多様化、大規模化、複雑化するにともない、施主設計工事という単純な流れの中で建物ができるのでなく、プロジェクト(建築)の構想から企画、設計をまとめ、どう工事につなげていくのか極めて大きな、大切な作業になってきている。

こうした企画、計画、プロデュースといったことについて講義、演習を通して考えてみたい。

E 250 都市計画特論 B (講) 0-2-2 (講師 田村 明)

21世紀は都市の時代であり、いま我々はその入口にいる。

現代都市はさまざまな矛盾をたえず発生させる。しかし、多くの人々は都市を離れて生活することはできない。したがって矛盾を冷静に見極めながら、これを解決し、さらによりよい生活を求める都市づくりが必要である。いまのところ都市計画の理論と都市の現実にはかなりのギャップがあるが、実践の中で新しい都市づくりの方法を探索したい。一方的な講義ではなく、受講者との討論のなかでこれらの課題を検討したい。

E 251 都市計画特論 C (講) 0-2-2 (教授 佐藤 滋)

地区レベルの居住環境改善計画の具体的事例をとり上げて、個々の事例ごとに問題の発生からそれへの対処、その成果等を分析し、各自の視点で今後の解決策を提示する。これらを通して、都市計画理念と方法論の展開過程を理解し、これからのあり方を追求する。

建築論の基本的問題を講述する。

E 230 建築計画 A (講) 2-0-2 (教授 石山修武)

E 231 建築計画 B (講) 0-2-2 (教授 穂積信夫)

近代建築の様々な潮流に見られた思想的、理論背景を探り、その主張と作品を分析する。各自テーマを分担し、これをセミナー形式で発表、討議する。

E 232 建築計画 C (講) 2-0-2 (教授 池原義郎)

E 240 建築設計計画理論 (講) 2-2-4 (教授 渡辺仁史)
(講師 中村良三)

ホテル、ショップ、住宅、工場等が一体のものとして総合的に複雑にからみあったプロジェクト、ウォーターフロントの倉庫の再利用のプロジェクト、過疎地のリゾート開発等、社会が豊かになり、多様化、大規模化、複雑化するにともない、施主設計工事という単純な流れの中で建物ができるのでなく、プロジェクト(建築)の構想から企画、設計をまとめ、どう工事につなげていくのか極めて大きな、大切な作業になってきている。

こうした企画、計画、プロデュースといったことについて講義、演習を通して考えてみたい。

E 250 都市計画特論 B (講) 0-2-2 (講師 田村明)

21世紀は都市の時代であり、いま我々はその入口にいる。

現代都市はさまざまな矛盾をたえず発生させる。しかし、多くの人々は都市を離れて生活することはできない。したがって矛盾を冷静に見極めながら、これを解決し、さらによりよい生活を求める都市づくりが必要である。いまのところ都市計画の理論と都市の現実にはかなりのギャップがあるが、実践の中で新しい都市づくりの方法を探索したい。一方的な講義ではなく、受講者との討論のなかでこれらの課題を検討したい。

E 251 都市計画特論 C (講) 0-2-2 (教授 佐藤滋)

地区レベルの居住環境改善計画の具体的事例をとり上げて、個々の事例ごとに問題の発生からそれへの対処、その成果等を分析し、各自の視点で今後の解決策を提示する。これらを通して、都市計画理念と方法論の展開過程を理解し、これからのあり方を追求する。

E 252 都市計画特論 D (講) 2-0-2 (教授 戸沼幸市)

(スケール論を基礎とした都市設計論)

人間尺度論を基礎にして人間の居住環境の設計方法をゼミナール形式で問題にする。

17 1991

E 260 建築構造 A (講) 2-2-4

(教授 谷資信)
(助教授 曾田五月也)
(講師 桜井譲爾)

主として、耐震構造に関する基礎的事項について述べる。

内容としては、耐震理論、耐震計画、耐震設計、弾塑性構造解析などが含まれている。

選択上の注意：学部における専門選択科目のうち、建築構造力学(Ⅱ)、建築振動学、地震工学および構造設計(A)、(B)、(C)、建築構造計画、構造実習を履修していることが望ましい。

E 261 建築構造 B (講) 2-2-4

(教授 田中弥寿雄)
(助教授 西谷章)

曲面論にもとづき、弾性論の一般基礎方程式を誘導し、各種解法について述べ、また塑性論に基く解説を行う(田中)。確率信頼性理論に基づく設計法について講義する。構造信頼性工学の基礎的事項を述べてから、限界状態設計法を解説する(西谷)。

選択上の注意：学部における専門選択科目のうち、建築構造力学(Ⅱ)構造実習(A)、(B)を履修していることが望ましい。

E 262 建築構造 C (講) 2-2-4

(未定)

E 263 建築構造 D (講) 2-2-4

(教授 風間了)
(講師 山下丞三)

建築物の耐震設計(動的解析)において問題となる建築物の固有について、実在建築物の振動実験結果等より紹介するとともに、その動的解析における位置付け、考え方について述べる。また、建築物の耐震設計における、特に基礎部分の問題点、新工法等についても紹介する。

E 270 振動論 (講) 0-2-2

(講師 山田真)

多自由度系連続体について振動方程式を誘導し、自由振動、強制振動、過渡振動の基礎的事項を述べる。また、地震時の地盤振動に関連して、地盤モデル化手法や各種の振動測定法について解説する。構造物の免震・制振の問題にもふれる。

E 290 地震学 (講) 2-0-2

(講師 笠原慶一)

最近における地震学の成果をふまえつつ、震源モデルにはじまり、そこから放出された地震波がどのように伝わり、地表付近に到達した地震波が地下構造の差異によりどのように変形されるか等、震源からサイトに至る地震波の挙動について講義する。なお、受講にあたって、特に予備知識は必要としない。

早大理工学研究所要項 1992

E231 建築計画B (講) 0-2-2 (教授 穂積 信夫)

近代建築の様々な潮流に見られた思想的、理論的背景を探り、その主張と作品を分析する。各自テーマを分担し、これをセミナー形式で発表、討議する。

E232 建築計画C (講) 2-0-2 (教授 池原 義郎)

研究室で実行してきた建築設計作品について、全体計画からディテールまでに渡り、具体的に論ずるものである。

E240 建築設計計画理論 (講) 2-2-4 (教授 渡辺 仁史)
(講師 中村 良三)

社会は豊かになり、そして不確定になりながら、ホテル、店舗等の建築、工場跡地の再開発、リゾート開発等は増々多様化、大規模化、複雑化してきている。

こうしたプロジェクトの企画、プロデュースといったことについて各種の実例を紹介しながら演習を通して考えてみたい。

E250 都市計画特論B (講) 0-2-2 (講師 田村 明)

21世紀は都市の時代であり、いま我々はその入口にいる。

現代都市はさまざまな矛盾をたえず発生させる。しかし、多くの人々は都市を離れて生活することはできない。したがって矛盾を冷静に見極めながら、これを解決し、さらによりよい生活を求める都市づくりが必要である。いまのところ都市計画の理論と都市の現実にはかなりのギャップがあるが、実践の中で新しい都市づくりの方法を探索したい。一方的な講義ではなく、受講者との討論のなかでこれらの課題を検討したい。

E251 都市計画特論C (講) 0-2-2 (教授 佐藤 滋)

地区レベルの居住環境改善計画の具体的事例をとり上げて、個々の事例ごとに問題の発生からそれへの対処、その成果等を分析し、各自の視点で今後の解決策を提示する。これらを通して、都市計画理念と方法論の展開過程を理解し、これからのあり方を追求する。

E252 都市計画特論D (講) 2-0-2 (教授 戸沼 幸市)

(スケール論を基礎とした都市設計論)

人間尺度論を基礎にして人間の居住環境の設計法をゼミナール形式で問題にする。

E260 建築構造A (講) 2-2-4 (助教授 曾田 五月也)
(講師 桜井 譲爾)

主として、耐震構造に関する基礎的事項について述べる。

内容としては、耐震理論、耐震計画、耐震設計、弾塑性構造解析などが含まれている。選択上の注意：学部における専門選択科目のうち、建築構造力学(II)、建築振動学、地

震工学および構造設計(A)、(B)、(C)、建築構造計画、構造実習を履修していることが望ましい。

E261 建築構造B (講) 2-2-4 (助教授 田中 弥寿雄)
(講師 西谷 章)

曲面論にもとづき、弾性論の一般基礎方程式を誘導し、各種解法について述べ、また塑性論に基く解説を行う(田中)。構造信頼性工学の基礎的事項を述べてから、構造システムとしての諸問題、制振、システムパラメータ同定等について解説する(西谷)。

選択上の注意：学部における専門選択科目のうち、建築構造力学(II)、構造実習、構造計算演習A、B、建築数学Aを履修していることが望ましい。

E262 建築構造C (講) 0-2-2 (講師 清水 敬三)

E263 建築構造D (講) 2-2-4 (助教授 風間 了)
(講師 山下 丞二)

建築物の耐震設計(動的解析)において問題となる建築物の固有について、実在建築物の振動実験結果等により紹介するとともに、その動的解析における位置付け、考え方等について述べる。また、建築物の耐震設計における、特に基礎部分の問題点、新工法等についても紹介する。

E270 振動論 (講) 0-2-2 (助教授 山田 眞)

1自由度系・多自由度系・連続体の振動方程式を誘導し、振動の基礎的事項を述べる。また、地震時の地盤振動に関連して、地盤モデル化手法や各種の振動測定法について解説する。その他トピックス的な振動問題にもふれる。

E290 地震学 (講) 2-0-2 (講師 笠原 慶一)

最近における地震学の成果をふまえつつ、震源モデルにはじまり、そこから放出された地震波がどのように伝わり、地表付近に到達した地震波が地下構造の差異によりどのように変形されるか等、震源からサイトに至る地震波の挙動について講義する。なお、受講にあたって、特に予備知識は必要としない。

E300 建築設備工学 (講) 0-2-2 (教授 石福 昭)

建築設備システムの総合計画とその評価の手法について、最近の傾向、問題点などを中心に講述する。

E310 建築環境論 (講) 2-0-2 (教授 木村 建一)

建築計画における環境工学上の興味ある諸問題について講述する。熱、湿気、空気、音、光などの各種環境要素の外乱に対し、建築環境空間に生ずる種々の応答を解明することに

た地球環境問題から考えた都市の環境問題を学ぶ。早稲田大学が東京都心に立地しているところから、世界最大の都市であり、最も過密な東京の都市計画を環境面から捉え、体験しながら、エネルギー、水、風、緑に加えて人々の生活様式を展望した21世紀型の東京都市像を研究する。学部においては環境計測、広域環境論などを選択しておくことが望ましい。

E 060 建築材料及施工研究 (教授 田村 恭)

建築生産の基本となる建築材料、施工法並びにこれに関連する諸技術について調査や研究を行なう。特に建築材料に関しては、各種の材料の特性について理論的ならびに実験的研究を行う。また建築施工に関しては、建築産業の正しい発展の姿を志向しつつ、資材・労務の在り方、生産システムをめぐる諸問題について経営工学的な研究を行う。

E 061 建築材料及施工研究 (教授 神山 幸弘)

建築物の実体として構法をとらえ、構法計画のプロセス、性能、各部位構法、工業化構法、生産性など構法設計の原理とその実際について考究する。

E 062 建築材料及施工研究 (教授 嘉納 成男)

建築工事における計画、管理をめぐるシステムズアプローチ、OR技法の理論と実際の研究を通じ、建築工事マネジメント・システムの在り方並びにその確立に要求される方法論を考究する。

E 210 建築史 (講) 2-0-2 (教授 中川 武)

建築生産史と建築表現史との関連を主題とする。具体的には住宅史や特定の時代の建築を対象とする。

E 220 建築美学及建築論 (講) 2-2-4 (講師 上松 佑二)
(講師 西本 真二)

前期は建築空間論史の体系的講述。後期はさまざまな建築を題材として建築論の基本的問題を講述する。

E 230 建築計画 A (講) 2-0-2 (教授 石山 修武)

E 231 建築計画 B (講) 0-2-2 (教授 穂積 信夫)

近代建築の様々な潮流に見られた思想的、理論的背景を探り、その主張と作品を分析する。各自テーマを分担し、これをセミナー形式で発表、討議する。

17 1293

E 232 建築計画 C (講) 2-0-2 (教授 池原 義郎)

研究室で実行してきた建築設計作品について、全体計画からディテールまでに渡り、具体的に論ずるものである。

E 240 建築設計計画理論 (講) 2-2-4 (教授 渡辺 仁史)
(講師 中村 良三)

社会は豊かになり、そして不確定になりながら、ホテル、店舗等の建築、工場跡地の再開発、リゾート開発等は増々多様化、大規模化、複雑化していている。

こうしたプロジェクトの企画、プロデュースといったことについて各種の実例を紹介しながら演習を通して考えてみたい。

E 250 都市計画特論 B (講) 0-2-2 (講師 田村 明)

21世紀は都市の時代であり、いま我々はその入口にいる。

現代都市はさまざまな矛盾をたえず発生させる。しかし、多くの人々は都市を離れて生活することはできない。したがって矛盾を冷静に見極めながら、これを解決し、さらによりよい生活を求める都市づくりが必要である。いまのところ都市計画の理論と都市の現実にはかなりのギャップがあるが、実践の中で新しい都市づくりの方法を探索したい。一方的な講義ではなく、受講者との討論のなかでこれらの課題を検討したい。

E 251 都市計画特論 C (講) 0-2-2 (教授 佐藤 滋)

地区レベルの居住環境改善計画の具体的事例をとり上げて、個々の事例ごとに問題の発生からそれへの対処、その成果等を分析し、各自の視点で今後の解決策を提示する。これらを通して、都市計画理念と方法論の展開過程を理解し、これからのあり方を追求する。

E 252 都市計画特論 D (講) 2-0-2 (教授 戸沼 幸市)

人間尺度論(人体尺・人口尺・密度・動度)を基礎にして人間の居住環境(建築・都市スケールから国土・地球大まで)の計画課題と解決法をゼミナール形式で講義する。

E 260 建築構造 A (講) 2-2-4 (助教授 曾田 五月也)
(講師 桜井 譲爾)

主として、耐震構造に関する基礎的事項について述べる。

内容としては、耐震理論、耐震計画、耐震設計、弾塑性構造解析などが含まれている。

選取上の注意：学部における専門選択科目のうち、建築構造力学(Ⅱ)、建築振動学、地震工学および構造設計(A)、(B)、(C)、建築構造計画、構造実習を履修していることが望ましい。

- E210 建築史 (講) 2-0-2 (教授 中川 武)
 建築生産史と建築表現史との関連を主題とする。具体的には住宅史や特定の建築を対象とする。
- E221 建築美学 (講) 2-0-2 (講師 上松 佑二)
 建築空間論史の体系的講述。
- E222 建築論 (講) 0-2-2 (助教授 西本 真一)
 さまざまな建築を題材として、建築論あるいは表現論の基本的問題を拾い上げてみたい。
- E230 建築計画 A (講) 2-0-2 (教授 石山 修武)
 E231 建築計画 B (講) 0-2-2 (助教授 古谷 誠章)
 主として講述者の携わってきた建築作品、計画面、建築的プロポーザルについて、その与条件や立地環境に対して行なった提案の思想的理論的背景を解説し、設計意図がどのように反映されているのかを述べる。
- E232 建築計画 C (講) 2-0-2 (教授 池原 義郎)
 研究室で実行してきた建築計画作品について、全体計画からディテールまでに渡り、具体的に論ずるものである。
- E240 建築設計計画理論 (講) 2-2-4 (教授 渡辺 仁史)
 (講師 中村 良三)
 社会は豊かになり、そして不確定になりながら、ホテル、店舗等の建築、工場跡地の再開発、リゾート開発等は増々多様化、大規模化、複雑化していている。
 こうしたプロジェクトの企画、プロデュースといったことについて各種の実例を紹介しながら演習を通して考える。
- E250 都市計画特論 B (講) 0-2-2 (客員教授 田村 明)
 21世紀は都市の時代でもあり、いま我々はその入口にいる。
 現代都市はさまざまな矛盾をたえず発生させる。しかし、多くの人々は都市を離れて生活することはできない。したがって矛盾を冷静に見極めながら、これを解決し、さらによりよい生活を求める都市づくりが必要である。いまのところ都市計画の理論と都市の現実にはかなりのギャップがあるが、実践の中で都市づくりの方法を探索したい。一方的な講義ではなく、受講者との討論のなかでこれらの課題を検討したい。

同 1974

- E251 都市計画特論 C (講) 2-0-2 (教授 佐藤 滋)
 地区レベルの居住環境改善計画の具体的事例をとり上げて、個々の事例ごとに問題の発生からそれへの対処、その成果等を分析し、各自の視点で今後の解決策を提示する。これらを通して、都市計画理念と方法論の展開過程を理解し、これからのあり方を追求する。
- E252 都市計画特論 D (講) 0-2-2 (教授 戸沼 幸市)
 人間尺度論(人体尺・人口尺・密度・動度)を基礎にして人間の居住環境(建築・都市・スケールから国土・地球大まで)の計画課題と解決法をゼミナール形式で講義する。
- E253 都市計画特論 E (講) 0-2-2 (助教授 後藤 春彦)
 全国で展開されているまちづくり・地域づくりなど都市・地域経営の実態を概括し、都市および地域の諸問題の把握と計画・設計プロセスについて各人の問題意識に基づき解析するとともに、あらたな解決策や今後の展開方針を提示する。
- E260 建築構造 A (講) 2-2-4 (助教授 曾田 五月也)
 (講師 桜井 譲爾)
 主として、耐震構造に関する基礎的事項について述べる。
 内容としては、耐震理論、耐震計画、耐震設計、弾塑性構造解析などが含まれている。
 選択上の注意：学部における専門選択科目のうち、建築構造力学(Ⅱ)、建築振動学、地震工学および構造設計(A)、(B)、(C)、建築構造計画、構造実習を履修していることが望ましい。
- E261 建築構造 B (講) 2-2-4 (教授 西谷 章)
 (教授 田中 彌寿雄)
 構造信頼性工学の基礎的事項を述べてから、構造システムとしての諸問題、制振、システムパラメータ同定等について解説する(西谷)。曲面論にもとづき、弾性論の一般基礎方程式を誘導し、各種解法について述べ、また塑性論に基づく解説を行う(田中)。
 選択上の注意：学部における専門選択科目のうち、建築構造力学(Ⅱ)、構造実習、構造計算演習 A、B、建築数学 A を履修していることが望ましい。
- E262 建築構造 C (講) 0-2-2 (講師 清水 敬三)
 建築の設計者を志す諸兄に対し、構造設計とそれを支える技術支援システムとの対応を理解させ、修得させることを、主目的とする。
 まず、建築の構造設計の現状を、具体的な事例を紹介しつつ説明する。次に、この現状を支えている基本理念に言及し、それと、基礎理論との対応を説明する。さらに現状での構造設計の各分野について言及し、構造の基本計画、基本コンセプトの作成プロセスと、意匠コンセプトとの対応等を、実例に照らして説明して行く。

建設工学専攻

建築学専門分野

E010 建築史研究 (助教授 西本真一)

人間が建物を造ることと動物が巣作りをおこなうこととの間には、一見似ているようだが実は大きな隔りがある。歴史の中に浮かぶ建築作品をひとつの表現と捉え、人が時代から負う制約と、これを超えようとする共通したある意思を見定めつつ、建築表現論としての建築史の構築を念頭に置きながら研究を進める。西欧近代建築、古代エジプト建築などを主な考察の対象とする。

E011 建築史研究 (教授 中川 武)

建築の歴史的考察を通して、建築表現と設計方法および設計技術の体系との関連を追求する。建築学的方法の探求としての建築の歴史概念の創造を目標とする。考察の対象は主として伝統的な日本建築、東南アジアを中心としたアジアの建築、およびエジプト建築など。

E020 建築計画研究 (教授 石山修武) (客員教授 磯崎 新)

旧ソ連圏を含む東欧、中国を含むアジア全域の建築思潮の調査と方法的確立を目指すスタディーを行うとともに、磯崎新自身の作品の第一次資料による詳細な研究を行う。

E021 建築計画研究 (助教授 古谷 誠章)

建築を設計する観点に立って、建築計画の理念や目的、方法などを研究する。様々な建築家、建築作品、計画手法の考察を通じて、建築表現の背後にある造形や計画の思考を学び、各自の設計方法の模索するための一助とする。

E022 建築計画研究 (教授 入江 正之)

建築設計制作を中心とし、設計者としての視点に立っての建築計画、設計理論、意匠論の研究を行う。

E023 建築計画研究 (教授 渡辺 仁史)

建築空間を利用する人間の行動モデルの研究および設計へのコンピュータ利用の研究を中心とし、単に施設の使われ方を調査するだけでなく、それを設計にフィードバックするための理論を追求する。

E031 都市計画研究 (教授 佐藤 滋)

居住環境形成のプロセスを、都市計画等による計画的な制御と、場所と地域の自律性の相互関係としてとらえ、都市計画、特に居住環境計画の方法論を研究し、開発する。その前提として、近代以前の伝統的な環境形成の論理、近代における内発的な住環境形成の動態、近代の計画理論の重層として近代の都市空間形成を解析する。住民参加と共働による自律的な都市空間形成の方法、伝統的な空間形成手法を基盤とした現代都市計画の方法、地域と融合する再開発の方法等が具体的なテーマである。

E032 都市計画研究 (教授 戸沼 幸一) (客員教授 田村 明)

大自然の中に創られる人間の居住環境(住環境から都市・地域・地球環境まで)を自然、人間、人工の三つの要素に分け、それらを規模、密度、動きの三つの側面から個別に、あるいは全体的に研究し、その成果を生命の網目都市としての居住環境計画につなげていく。

同 1995

E033 都市計画研究 (助教授 後藤 春彦)

都市空間の構成原理や特質を固有の風土性・歴史性・社会性より探り、まちづくり・地域づくりの実践を通して、望ましい都市・地域の空間像・生活像・社会像を提示することを目的とする。特に総合的な都市計画の成果として美的価値を導くことを中心課題に据えて研究する。

E040 建築構造研究 (教授 風間 了)

基礎、基盤を考慮した建築物の振動性状ならびに建築基礎の耐震設計に関する研究を行う。

E041 建築構造研究 (助教授 山田 眞)

地盤・建物系を含めた耐震設計における地震入力に関して研究する。

E043 建築構造研究 (教授 田中 彌寿雄)

平板・曲面板につき海洋波ならびに外周地盤等との相互作用問題を取り扱う。また鉄筋コンクリート短柱の地震時の性状につき考察する。

E044 建築構造研究 (助教授 曾田 五月也)

鉄筋コンクリート系構造・鉄骨系構造の各種接合部の復元力特性、剛性・耐力が不均一であることに起因する構造物の振じれ振動、風・交通振動などによる建築構造物の日常的な揺れの原因究明・制振対策などに関して研究する。静加力・動加力実験、現場計測のほか、有限要素法、境界要素法、不規則振動論などによる解析を行う。

E045 建築構造研究 (教授 西谷 章) (客員教授 菊竹 清訓)

建築物の構造設計にかかわる諸問題について研究する。構造信頼性工学に基づいた合理的設計法、設計荷重の組み合わせ、不規則振動理論によるシミュレーション、制振構造の設計、構造モデル中の諸パラメータの推定、最適設計問題を研究対象とする。

E050 建築設備研究 (教授 石福 昭)

建築設備システムの計画・設計とその評価の手法について、最近の傾向、問題点などを中心に内外の実施例・文献などを通して研究する。

E051 建築環境研究 (教授 木村 建一)

建築環境設計に関する研究を行う。環境問題・エネルギー問題に対処しつつ、特に熱環境、光環境、空気環境の調整と快適性の評価および自然エネルギー利用の研究に重点を置いている。学部において、環境工学関係の科目を多く習得していることが望ましい。

E052 都市環境研究 (教授 尾島 俊雄) (客員教授 伊藤 滋)

建築・都市・社会システムのあり方と実態を研究することで、特に問題が顕著化してきた地球環境問題から考えた都市の環境問題を学ぶ。早稲田大学が東京都心に立地しているところから、世界最大の都市であり、最も過密な東京の都市計画を環境面から捉え、体験しながら、エネルギー、水、風、緑に加えて人々の生活様式を展望した21世紀型の東京都市像を研究する。学部においては環境計測、広域環境論などを選択しておくことが望ましい。

E060 建築材料及施工研究 (教授 田村 恭)

建築生産の基本となる建築材料、施工法並びにこれに関連する諸技術について調査や研究を行う。特に建築材料に関しては、各種の材料の特性について理論的ならびに実験的研究を行う。また建築施工に関しては、建築産業の正しい発展の姿を志向しつつ、資材・労務の在り方、生産システムをめぐる諸問題について経営工学的な研究を行う。

同 1995

- E061 建築材料及施工研究 (教授 神山幸弘)
建築物の実体として構法をとらえ、構法計画プロセス、性能、各部位構法、工業化構法、生産性など構法設計の原理とその実際について考究する。
- E062 建築材料及施工研究 (教授 嘉納成男)
建築工事における計画、管理をめぐるシステムズアプローチ、数理科学的手法の理論と実際の研究を通じ、建築工事マネジメント・システムの在り方並びにその確立に要求される方法論を考究する。
- E210 建築史 (講) 2-0-2 (教授 中川 武)
建築生産史と建築表現史との関連を主題とする。具体的には住宅史や特定の建築を対象とする。
- E221 建築美学 (講) 2-0-2 (講師 上松 佑二)
建築空間論史の体系的講述。
- E222 建築論 (講) 0-2-2 (助教授 西本 真一)
さまざまな建築を題材として、建築論あるいは表現論の基本的問題を拾い上げてみたい。各自の持つ問題意識をレポートしてもらうことが基礎作業となろう。
- E230 建築計画 A (講) 2-0-2 (教授 石山 修武)
E231 建築計画 B (講) 0-2-2 (助教授 古谷 誠章)
主として講述者の携わってきた建築作品、計画案、建築的プロポーザルについて、その与条件や立地環境に対して行なった提案の思想的理論的背景を解説し、設計意図がどのように反映されているのかを述べる。
- E232 建築計画 C (講) 2-0-2 (教授 入江 正之)
本講は建築デザインにおける造形と空間の広範な理解を目的とする。建築デザインをアプローチ、出入口、窓・壁・開口、架構、スクリーンなどの構成要素の配置、構成として捉え直し、個々の具体的な事例、さまざまな建築作品さらに、設計実践の経験をととして講ずる。
- E241 建築設計計画理論 A (講) 2-0-2 (教授 渡辺 仁史)
(講師 中村 良三)
社会は豊かになり、そして不確定になりながら、ホテル、店舗等の建築、工場跡地の再開発、リゾート開発等は増々多様化、大規模化、複雑化していつている。
こうしたプロジェクトの企画、プロデュースといったことについて各種の実例を紹介しながら演習を通して考える。
- E242 建築設計計画理論 B (講) 0-2-2 (教授 渡辺 仁史)
(講師 中村 良三)
建築設計計画理論 A が、実例の紹介を中心としたのに対し、計画立案や企画に際して、システムのアプローチを行うための理論的裏付けについて解説する。最後に、それらを総合した演習を通して、討論する。
- E250 都市計画特論 B (講) 0-2-2 (客員教授 田村 明)
21世紀は都市の時代でもあり、いま我々はその入口にいる。
現代都市はさまざまな矛盾をたえず発生させる。しかし、多くの人々は都市を離れて生活することはできない。したがって矛盾を冷静に見極めながら、これを解決し、さらによりよい生活を求める都市づくりが必要である。いまのところ都市計画の理論と都市の現実にはかなりのギャップがあるが、実践の中で都市づくりの方法を探索したい。一方的な講義ではなく、受講者との討論のなかでこれらの課題を検討したい。

- E251 都市計画特論 C (講) 2-0-2 (教授 佐藤 滋)
20世紀のわが国における居住環境計画の理論と実践の歴史を、10の主題を設定し、諸外国とも比較しながら講義をする。これをとおして日本独自の都市空間形成の文脈を明らかにする。主なテーマは、城下町都市を基盤とした近代都市計画の方法、1920年代の近代都市居住像、スラムクリアランスの理念と方法、改善型まちづくりと住民参加、等。
講義はあらかじめ配布する基礎文献の内容を理解していることを前提として、質疑・討論の形式を重視する。
- E252 都市計画特論 D (講) 0-2-2 (教授 戸沼 幸市)
人間尺度論(人体尺・人口尺・密度・動度)を基礎にして人間の居住環境(建築・都市・スケールから国土・地球大まで)の計画課題と解決法をゼミナール形式で講義する。
- E253 都市計画特論 E (講) 0-2-2 (助教授 後藤 春彦)
全国で展開されているまちづくり・地域づくりなど都市・地域経営の実態を概括し、都市および地域の諸問題の把握と計画・設計プロセスについて各人の問題意識に基づき解析するとともに、あらたな解決策や今後の展開方針を提示する。
- E262 建築構造 C (講) 0-2-2 (講師 清水 敬三)
建築の設計者を志す諸兄に対し、構造設計とそれを支える技術支援システムとの対応を理解させ、修得させることを、主目的とする。
まず、建築の構造設計の現状を、具体的な事例を紹介しつつ説明する。次に、この現状を支えている基本理念に言及し、それと、基礎理論との対応を説明する。さらに現状での構造設計の各分野について言及し、構造の基本計画、基本コンセプトの作成プロセスと、意匠コンセプトとの対応等を、実例に照らして説明して行く。
- E264 建築構造 A (講) 2-0-2 (講師 桜井 譲爾)
建築構造解析は、応用力学の一分野であるが、建築構造独特の問題があり、それに対応するために、種々の手法が開発されている。
この科目では上記の問題を含めて、材料力学レベルの部材モデルの定式化から始めて主として弾塑性範囲の静的、動的架構解析の定式化と解析手法を講義する。更に有限要素法等との関連、コンピュータ解析で使用されるプログラミング技法についても触れる。
教材は、毎回プリントで配布する。
- E265 建築構造 F (講) 0-2-2 (教授 曾田 五月也)
免震・制振構造物について、その理論的な基礎、制振装置(アイソレーター、弾塑性ダンパー、粘弾性体ダンパー、パッシブマスダンパー、アクティブマスダンパーなど)の具体例、実際の建築構造物への適用例、免震・制振効果の予測などに関して最近の研究成果をもとに講義する。学部にて建築振動学を履修していることが好ましい。
- E266 ランダム構造工学 (講) 2-0-2 (教授 西谷 章)
近年、不確かさ、ばらつき等のキーワードが構造工学分野に登場し、確率論をベースとした設計法、構造解析、振動解析が主要な一分野として発展してきている。これらの問題を取り扱うための基礎から応用に至るまでを講義する。まず、構造信頼性工学の基本的事項を述べてから、構造システムデザインに関わる諸問題の中から、確率論に立脚した設計法、不確かさをもつ構造システムに対する制振構造の設計、システム同定等のいずれかを中心として解説する。
選取上の注意：学部における専門選択科目のうち、建築数学A、建築構造設計A (I)、(II)を履修していることが望ましい。
- E267 建築構造 B (講) 0-2-2 (教授 田中 彌壽雄)
曲面論にもとづき、弾性論の一般基礎方程式を誘導し、次いで各論に入り、各種形式の曲面について解析解ならび

建設工学専攻

建築学専門分野

E010 建築史研究

(助教授 西本真一)

人間が建物を造ることと動物が巣作りをおこなうこととの間には、一見似ているようだが実は大きな隔りがある。歴史の中に浮かぶ建築作品をひとつの表現と捉え、人が時代から負う制約と、これを超えようとする共通したある意思を見定めつつ、建築表現論としての建築史の構築を念頭に置きながら研究を進める。西欧近代建築、古代エジプト建築などを主な考察の対象とする。

E011 建築史研究

(教授 中川 武)

建築の歴史的考察を通して、建築表現と設計方法および設計技術の体系との関連を追求する。建築学的方法の探求としての建築の歴史概念の創造を目標とする。考察の対象は主として伝統的な日本建築、東南アジアを中心としたアジアの建築、およびエジプト建築など。

E020 建築計画研究

(教授 石山修武)

旧ソ連圏を含む東欧、中国を含むアジア全域の建築思潮の調査と方法的確立を目指すスタディーを行うとともに、磯崎新自身の作品の第一次資料による詳細な研究を行う。

E025 建築計画研究

(客員教授 磯崎 新)

E021 建築計画研究

(助教授 古谷誠章)

建築を設計する観点に立って、建築計画の理念や目的、方法などを研究する。様々な建築家、建築作品、計画手法の考察を通じて、建築表現の背後にある造形や計画の思考を学び、各自の設計方法の模索するための一助とする。

E026 建築計画研究

(客員教授 菊竹清訓)

E022 建築計画研究

(教授 入江正之)

建築設計及びその制作を中心とし、設計者としての視点に立って西欧近代の建築家たちの創作態度に関する研究並びに建築論・空間論に関連する文献研究などを通じて総合的に建築計画、設計理論、意匠論の研究を行う。

E023 建築計画研究

(教授 渡辺仁史)

建築空間を利用する人間の行動モデルの研究および設計へのコンピュータ利用の研究を中心とし、単に施設の使われ方を調査するだけでなく、それを設計にフィードバックするための理論を追求する。

E031 都市計画研究

(教授 佐藤 滋)

居住環境形成のプロセスを、都市計画等による計画的な制御と、場所と地域の自律性の相互関係としてとらえ、都市計画、特に居住環境計画の方法論を研究し、開発する。その前提として、近代以前の伝統的な環境形成の論理、近代における内発的な住環境形成の動態、近代の計画理論の重層として近代の都市空間形成を解析する。住民参加と共働による自律的な都市空間形成の方法、伝統的な空間形成手法を基盤とした現代都市計画の方法、地域と融合する再開発の方法等が具体的なテーマである。

同 1996 (最終年度)

E032 都市計画研究

(教授 戸沼幸市)

大自然の中に創られる人間の居住環境(住環境から都市・地域・地球環境まで)を自然、人間、人工の三つの要素に分け、それらを人間尺度・位置、規模、密度、動き等の側面から個別に、あるいは全体的に研究する。その研究成果を計画論として理論化し、大自然に営まれる居住環境を「生命の網目都市」として構想し実践的に計画することをめざす。

E034 都市計画研究

(客員教授 田村 明)

21世紀は「都市の時代」である。都市を除いて現代の生活は考えられないし、都市から逃れることもできない。しかも、「都市現象」が全国を覆って、先進国は全体が都市国家になっている。開発途上国もやがてそうなる。だが、都市はますます巨大化し、制御することが難しくなってきた。固定的な官庁都市計画だけではもはや有効ではない。新しい都市づくりに対応できる現代の手法を研究する。

E033 都市計画研究

(助教授 後藤春彦)

都市空間の構成原理や特質を地域固有の風土性・歴史性・社会性より探り、まちづくり・地域づくりの実践を通して、望ましい都市・地域の空間像・生活像・社会像を提示することを目的とする。特に総合的な都市計画の成果として美的価値を導くことを中心課題に据えて研究する。近年取り組んでいる研究テーマを以下に掲げる。

- 1) 都市景観設計論
- 2) 地方小都市まちづくりの計画論
- 3) 農山漁村地域振興計画論
- 4) メディア考現学

E040 建築構造研究

(教授 風間 了)

地盤・基礎を考慮した建築物の振動性状および耐震設計についての研究を主体とする。具体的には、建築物の地震応答に与える基礎部分の影響、特に地盤の液状化が同応答に与える影響について研究するとともに、それに伴う杭基礎の耐震設計法等についても言及する。

E041 建築構造研究

(助教授 山田 眞)

地盤・建物系を含めた建築物の耐震安全性を確保するための地震入力に関して研究する。電源から伝播経路、サイト周辺地盤までを含めた波動伝播問題を扱い、地盤構造の推定や地形の効果を、差分法や有限要素法によるシミュレーションにより研究する。また、地震災害の発生メカニズムや波及効果を検討し、地震動情報の災害予測、軽減や復旧対策への即時的応用を研究する。

E043 建築構造研究

(教授 田中 彌寿雄)

鉄筋コンクリート柱の補強法に関する研究、ケーブル構造の性状に関する研究、平面板、曲面板の海洋波との相互作用問題に関する研究等を行う。

E044 建築構造研究

(教授 曾田 五月也)

建築耐震構造に関する種々の研究を行う。建築物を構成する部材個々の荷重変形関係を基にして、架構全体としての復元力特性(履歴減衰)の評価を行う事を研究の基本として、それらの違いが建築物の耐震安全性に及ぼす影響を種々の角度から検討する。今年度は、先の1995年兵庫県南部地震において見られた建築物の種々の形態の構造被害の原因究明と今後の対策の提示とを緊急の課題として、建築物設計用地震力の策定、構造部材の力学的な性能(変形性能)の向上、粘弾性体ダンパー、アクティブマスダンパー等の制振装置を積極的に活用する手法などの開発実践を目指す。

E045 建築構造研究 (教授 西谷 章)

建築物の構造設計にかかわる諸問題、特に不確かさ、あいまいさ、不規則さを含む問題について研究する。不確かさを含む建物の制震・制振システムの設計、構造モデル中の諸パラメータの推定、不規則振動理論による確率場のシミュレーション、構造信頼性工学に基づいた合理的設計法、設計荷重の組み合わせ、最適設計問題を研究対象とする。

E050 建築設備研究 (教授 石福 昭)

建築設備システムの計画・設計と、その評価の手法について、文献・実施例などにより研究を行う。本年度は、これらの研究をLCAをテーマとして行う。

E051 建築環境研究 (教授 木村 建一)

建築環境設計に関する研究を行う。環境問題・エネルギー問題に対処しつつ、特に熱環境、光環境、空気環境の調整と快適性の評価および自然エネルギー利用の研究に重点を置いている。学部において、環境工学関係の科目を多く習得していることが望ましい。

E052 都市環境研究 (教授 尾島 俊雄)

建築・都市・社会システムのあり方と実態を研究することで、特に問題が顕著化してきた地球環境問題から考えた都市の環境問題を学ぶ。早稲田大学が東京都心に立地しているところから、世界最大の都市であり、最も過密な東京の都市計画を環境面から捉え、体験しながら、エネルギー、水、風、緑に加えて人々の生活様式を展望した21世紀型の東京都市像を研究する。学部においては環境計測、広域環境論などを選択しておくことが望ましい。

E053 都市環境研究 (客員教授 伊藤 滋)

東京に代表される巨大都市は、21世紀には発展途上国において、数多く生れてくるであろう。その都市の姿について、種々の環境上の視点から論議が必要になってくる。全国と東京、東京とそれを構成する市町村、この2つの関係を中心にして、巨大都市の安全快適効率という都市計画の命題を考えてみる。この議論から、地球環境の改善に貢献しうる巨大都市の具体像を把握してみたい。

E061 建築材料及施工研究 (教授 神山 幸弘)

建築物の実体として構法をとらえ、構法計画プロセス、性能、各部位構法、工業化構法、生産性など構法設計の原理とその実際について考究する。

E062 建築材料及施工研究 (教授 嘉納 成男)

建築工事における工程計画、管理をめぐる方法論を検討し、システムズアプローチ、数理科学的手法等の理論と手法の研究を通じ、建築工事の管理の仕組みとそのシステム化の在り方を考究する。

E610 建築史A演習I 2-2-4 (助教授 西本 真一)

実際の建物だけではなく、さまざまな文献資料や図面なども手掛かりにしながら、ある時代における建築の姿を建築史的に追究する。史的考察をおこなうに当たって必要とされる解析方法の基礎の習得が目的とされよう。

E611 建築史A演習II 2-2-4 (助教授 西本 真一)

ゼミ形式による建築技術書の読解をもとに、その時代の設計理念を共同で考察する。またその作業から得られた史的研究方法に基づきながら、固有の諸問題を展開させる。修士論文の執筆を前提に、体系的な考察をおこなう体験を深める。

E620 建築史B演習I 2-2-4 (教授 中川 武)

古建築の遺構と実測建築図面を対象として、建築生産史と建築様式史的方法による考察のもとに、建築設計技術の分析を行い、時代の建築表現を把握する。

E621 建築史B演習II 2-2-4 (教授 中川 武)

アジアおよび日本の古典建築技術書を対象として、受講者が分担研究し、各自の発表と討論、講評を通して、建築史研究方法論の基礎を習得する。

E630 建築設計計画A演習I 2-2-4 (教授 石山 修武)

E631 建築設計計画A演習II 2-2-4 (教授 石山 修武)

E640 建築設計計画B演習I 2-2-4 (助教授 古谷 誠章)

広く現代社会の中から空間的、建築的、都市的あるいは環境的な問題を各自が発見し、これに対する提案を主として建築の設計・制作を通じて行う。課題に応じて、単独または共同してこれを行う。

E641 建築設計計画B演習II 2-2-4 (助教授 古谷 誠章)

演習Iの成果をさらに発展させる過程で各自の研究主題を絞り込み、これに対する個別の指導を行う。建築論、手法論、計画理論などの研究のほか、その実践としての設計計画を行うこともできる。

E650 建築設計計画C演習I 2-2-4 (教授 入江 正之)

共通の課題のもとに、原則として各個人ごとに設計・制作の演習を行う。大規模な複合施設や都市計画的内容も含む計画などの課題によっては、グループ制作を行うこともある。また、実施設計の参画並びに文献ゼミなどを通して広範に建築設計、制作・理論を総合的に体得する。

E651 建築設計計画C演習II 2-2-4 (教授 入江 正之)

演習Iで把みとられた各自の研究テーマをもとに、建築設計計画及びその制作、或は理論展開のための演習を行う。

E660 建築設計計画D演習I 2-2-4 (教授 渡辺 仁史)

指定したテーマに従って行動モデルの作成あるいは調査報告書を作成し、設計への科学的アプローチおよび人間と空間との関わりの基礎的把握を行う。

E661 建築設計計画D演習II 2-2-4 (教授 渡辺 仁史)

各自が設定したテーマに基づき行動調査やモデル化を行い、文献研究、討論によって論文または計画案を作成する。

E670 都市計画B演習I 3-3-6 (客員教授 田村 明)

E671 都市計画B演習II 3-3-6 (客員教授 田村 明)

E680 都市計画C演習I 3-3-6 (教授 佐藤 滋)

毎年、具体的な地区を選定し、高密度複合市街地を対象として、まちづくりの計画作成を問題の発見から、解析提案・設計までを地元の自治体、住民、専門家等と協力しながら行う。これをとおして現代の都市計画の現実に対応する方法論を演習する。

E681 都市計画C演習II 3-3-6 (教授 佐藤 滋)

各自の研究テーマに基づき、関連する地域で演習を行う。また類似の計画事例の分析評価を行い、修士論文に結び



早稲田大学大学院理工学研究科

〒169 東京都新宿区大久保3-4-1
電話 (03) 5286-3020

理工学研究科要項

早稲田大学大学院

SYLLABUS OF GRADUATE SCHOOL OF SCIENCE AND ENGINEERING, WASEDA UNIVERSITY

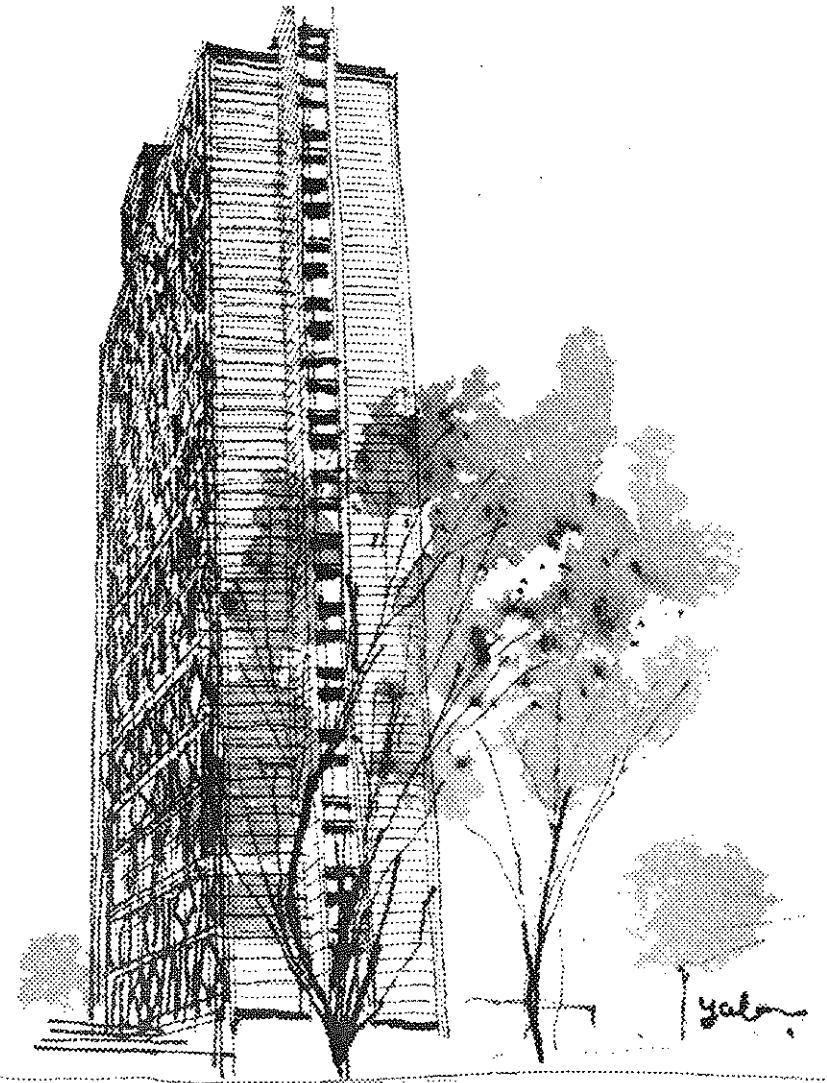
理工学研究科要項

1996

GRADUATE SCHOOL OF SCIENCE AND ENGINEERING, WASEDA UNIVERSITY
3-4-1 Ohkubo, Shinjuku, Tokyo 169 Phone 03-5286-3020

一九九六年度

早稲田大学大学院



早稲田大学図書館



010196109175

印刷：東京プレス スケッチ：藪野 健

W
091
46
1996:2